

(仮称) デザイン会議の取組状況について

令和6年度に発足した、まちへの影響が大きい都市計画道路事業・計画を契機として住民主体のまちづくりを目指す、3地域の(仮称)デザイン会議の取組状況について、以下の通り報告します。

1 (仮称) デザイン会議等の開催状況

令和7年度は、区民と区との対話の場である「全体会」、(仮称)デザイン会議のプログラム案等について議論する「運営会議」を開催したほか、具体的な取組を考える「テーマ部会」が2地域で発足した。加えて、「情報共有・学びの場」として、有識者を招いてまちづくりに関する講演会等を行った。

○令和7年度の開催状況

地域	開催日	主なテーマ	参加者
西荻窪	R7. 6. 7	【全体会】 ・有識者によるまちづくり事例等の講義 ・具体的な取組の検討	57名
	R7. 10. 18	【テーマ部会】 ・テーマ部会発足、活動内容の検討	42名
	R8. 2. 14	【テーマ部会】 ・テーマ部会の活動内容について報告会	60名
高円寺	R7. 6. 29	【全体会】 ・有識者によるまちづくり事例等の講義 ・具体的な取組の検討	42名
	R7. 11. 22	【テーマ部会】 ・テーマ部会発足、活動内容の検討	14名
南阿佐ヶ谷	R7. 8. 16	【情報共有・学びの場】 ・取組内容のパネル展示 ・まちの課題へのシール投票	26名
3地域合同	R7. 12. 14	【情報共有・学びの場】 ・まちづくりに関する講演会(有識者3名)	68名
	R8. 3. 7	【情報共有・学びの場】 ・まちづくり講座(有識者2名)	75名

※ このほか、西荻窪地域・高円寺地域ではテーマ部会別に活動。詳細は次頁以降に記載。

2 テーマ部会の開催状況（別紙1参照）

西荻窪地域・高円寺地域においては、魅力的な道づくりやまちのルール作りなどの具体的な取組を考えるテーマ部会が発足した。西荻窪地域では4つのテーマ、高円寺地域では2つのテーマについて、活動を開始している。

西荻窪地域では累計24回、高円寺地域では累計8回開催し、西荻窪地域ではテーマ部会の活動内容について、地域への報告会を行った（別紙2参照）。

3 まちづくりに関する講演会等の開催状況（別紙2参照）

まちづくりの取組を考える上で参考となるよう、様々な分野の専門家を招き講演会等を開催した。参加者が専門家の意見を聞きながら学び、地域の未来をどのように形にしていくのか、考える場を設けた。

（1）まちづくりに関する講演会

これまでの（仮称）デザイン会議の参加者に対し、関心のあるテーマやお話を伺ってみたい講師について調査した上で、3名の有識者を招き、講演会を行った。

- ① 吉江 俊 氏（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻講師）
「価値がめぐるまちへー住環境・公共空間・“迂回する経済”の都市論から」
- ② 稲垣 具志 氏（東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科准教授）
「みんなで考えるまちの空間ー交通安全とユニバーサルデザインの事例から」
- ③ 小柴 直樹 氏（一般財団法人世田谷トラストまちづくり常務理事）
「人をつなぐ街を創るー世田谷区の実践事例」

（2）まちづくり講座

まちの魅力につながる地域資源について考える機会とするため、専門家による講義の後、参加者との意見交換を行った。

- ① 饗庭 伸 氏（東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 教授）
「まちの価値と都市計画」
- ② 糸山 真人 氏（東京女子大学 現代教養学部 経済経営学科 地域デザインコース 特任教授）
「地域経営とコミュニティデザイン」
- ③ 講師と参加者による意見交換

4 今後の予定

(1) 西荻窪・高円寺地域

テーマ部会の活動を支援するとともに、活動内容を地域に広くお知らせして参加者の拡充を図りながら、区民と区で協働して、地域課題解決に向けて短期的に取り組める内容を実践していく。

なお、令和8年度に入ってから、西荻窪地域では、専門家によるバリアフリーに関する勉強会を開催し、視覚障害者の視点から地域の移動環境を見つめ直す取組をしたほか、道路用地を活用した雨庭づくりにも着手するなど、具体的な活動が動き出している。また、中長期的に取り組むべき課題についても、区民と区で対話を進め、ともに将来像を描きながら、解決に向けた検討を進めていく。

(2) 南阿佐ヶ谷地域

まちづくりへの機運の醸成を丁寧に行っていくことを目指し、令和7年度に実施したまちの課題へのシール投票の結果や講演会等で参加者から頂いた意見を踏まえ、地域とコミュニケーションをとりながら、具体的な取組を検討する。

テーマ部会の開催状況（令和7年度）

・ 西荻窪地域

テーマ部会名	取組テーマ	メンバー数	実施回数
道路用地の利活用部会	道路拡幅事業に伴い生まれる道路用地を、地域の暮らしにどう活かせるかを検討する。緑を増やし、ひと休みできるなどの「西荻らしい」まちを目指す。	19人	7回
多様な世代や立場の人の居場所づくり部会	子どもや高齢者、単身者などの居場所づくりや活動情報の発信などを通じて、新たな横のつながりを生み出すことを目指す。	11人	2回
西荻窪らしい商店街を守るルールづくり部会	西荻窪の賑わいを形成している街並みや商店街等の環境を維持するために、他地域の事例を学びながら、西荻窪のルール策定を目指す。	12人	7回
西荻ならではの「人中心」の道づくり部会	「人中心」の道のイメージを出し合い、専門家を招いた学習会を開催するなど、西荻らしい道づくりとは何かを検討していく。	25人	8回
累計開催数			24回

・ 高円寺地域

テーマ部会名	取組テーマ	メンバー数	実施回数
魅力ある道の空間や活用を考える部会	歩行者、自転車、自動車のバランスの取れた安全で快適な道路空間の形成や、中野との回遊性を高め、多世代の人々が行き交う活気ある道のあり方を検討する。	15人	3回
暮らしやすさと多様な人との交流を考える部会	防災、防犯やユニバーサルデザインへ配慮したまちづくり、世代間交流の活性化などを目指した取組を検討する。	15人	5回
累計開催数			8回

参加者からの意見（一部抜粋）

西荻窪地域 テーマ部会 報告会（令和8年2月14日）

- ・初めてデザイン会議に触れて、その熱量（想い）に驚いた。
- ・デザイン会議に児童から高齢者、障害者、外国籍の方々もより参加出来るシステム作りを期待している。（部会の時間設定によっては青少年は参加しづらい）
- ・西荻エリア付近の人の話も良く聞いてほしい。対話の区政の杉並区なのでじっくりと時間をかけて成果をあげてもらいたい。

まちづくり講演会（令和7年12月14日）

- ・対話が大事。賛成する人も反対する人も住民。反対する人の意見に耳を傾ける。情報量を合わせる。情報が変われば考え方が変わる。行政は、情報を開示するからことで信頼される。これからは、住民のやりたいことを行政が支援する視点が求められる。
- ・吉江先生、稲垣先生、小柴先生の講演（の共通点）は住民の意見をよく聞き、住民と行政が共にまちづくりをしていること。住民の参加が改めて大事なことだと思った。
- ・新しい視点を得ることができてとても面白かった。質問という形で住民の方のリアルな声を聴けたのも、印象に残った。
- ・若者の参加が少なかった事が残念。若者は家を持っていてそこにずっと住んでいる訳ではない人が多いので、ある意味それは問題ではないのかもしれないが、若者も多く住んでいる杉並区において、若者の地域に対する想像力が醸成されず、そのまま流されているのは問題である気もした。

まちづくり講座（令和8年3月7日）

- ・市民と行政が同じ目線で、同じ方向を向いて関係性を築くべき、というお話には共感した。ただ、今日の会議ではまだ同じ方向に向いていないのかな、とも感じたし、そのためには今日のような会を今後もぜひ続けていくべきだと思う。
- ・区民は地域のまちづくりに強い関心と興味があり、まちづくりに参加したいという希望があるのが良く分かる。区側は、今後とも継続して、まちづくりの考え方を区民に教授することが肝要。
- ・お話しは少し難しかったが、今後のデザイン会議や街づくりの進め方を考えるにあたり、必要な視点だと思う。たくさんの方と一緒に、知識を共有できて良かったと思う。
- ・ポジティブなまちづくりをしていきたい。自治体にたよらずに自分たちで、いい町にしていきたい。
- ・前回の三講座といい、今回といい、盛り込みすぎ、時間不足、結果目的不明、消化不良となったのは残念。
- ・参加者の平均年齢が高い。将来世代の意見を入れることが必要。
- ・初めて来た人には、何を課題にしているのか全くわからなかった。